

# 下野市立南河内中学校

## 1 学校課題

主体的に自分の将来を切り拓く生徒の育成  
～わかる・できる学習の実践を目指して～

## 2 研究計画

### (1) 研究のねらい

本校は、昨年度「主体的に自分の将来を切り拓く生徒の育成～わかる・できる学習の実践を目指して～」を学校課題とし、学習に主体的に取り組む「学ぶ意欲」をもたせるために、自分の将来の夢や希望をもち、その実現に向けて学習に取り組ませることを重点として取り組んできた。また、「わかる・できる」学習を積み上げ基礎・基本を習得させることに力を入れて取り組んできたが、本校の現状としては、まだ工夫が必要であるという考えに至った。

そこで今年度も、昨年度と同じ学校課題を引き続き設定し、「わかる・できる」学習を積み上げていくことに力を入れて取り組んできた。また、通常の学級において個別支援の必要な生徒が多いという現状から、通常の学級における学習支援について研究を進めることや、個に応じた手だてもあわせて研究を進めてきた。

### (2) 研究のすすめ方

#### ①全校体制での取り組み

- ・研究の目的を明確にし、全職員の共通理解のもとに進める。
- ・全職員が関わり、全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査結果の分析を行う。本校の学習指導の課題について共通理解を図り、問題解決に向けた取り組みについて話し合う。

#### ②校内研究会の充実

- ・S&Uコラボ事業を積極的に活用し、研修の活性化を図る。
- ・研究授業を全職員で参観し、授業研究会で意見交流を積極的に行うことで、授業改善を図る。

## 3 研究内容

### (1) 主な研究

月	研修会	研修内容
4月	研究推進委員会	【学校課題共有】 ・本研究計画の立案・検討
	全体研修会	・学校課題のとらえ方と研究の方法・進め方の確認・共通理解
	教科部会	・各教科等で研究計画の話し合い ・各教科等で研究計画（教科経営計画）の作成
7月	生徒による授業評価	・生徒アンケートによる授業評価
8月	職員研修	・全国、とちぎっ子学力学習状況調査結果の分析 ・学校課題と各教科の研究課題の方向性の検証と確認 ・教員による授業の自己評価
	小中連携研修(学区)	・「学び」、「家庭学習習慣」についての情報交換 ・小中連携の理解と推進
	個人研究	・生徒による授業評価の集計結果の考察
9月	職員研修	【要請訪問】 ・指導者 岡本 直美 先生 ・2年道徳 C-(6) 家族愛「一冊のノート」 研究授業・授業研究会

11月	職員研修	<b>【S &amp; U コラボ事業】</b> ・講師 田村 岳充 先生 ・1年英語科 My Project 2 「人を紹介しよう」 研究授業・授業研究会
12月	職員研修	<b>【S &amp; U コラボ事業】</b> ・講師 司城 紀代美 先生 ・1年国語科 読みを深め合う 詩「見えないだけ」 研究授業・授業研究会
3月	研究推進委員会 教科部会 全体研修会	・成果と課題の確認と次年度の計画立案に向けた話合い ・生徒の変容の確認（実態調査の実施） ・研究課題のまとめと反省の検討 ・研究のまとめと次年度への課題

## (2) 研究の実際

### ① 11月14日（水）S&Uコラボ事業

授業研究会 1年英語科 My Project 2 「人を紹介しよう」

指導者 宇都宮大学教育学部 助教 田村 岳充 先生

講話 「主体的に自分の未来を切り拓く生徒の育成」

既習の文法事項に気を付けながら、人物あてクイズを作成する学習である。明るく安心感のある雰囲気の中、これまでの学習内容を駆使しながら、どの生徒も積極的に活動していた。研究協議では、配慮を要する生徒への配慮についての様々な取組についての意見が出された。指導講評では、主体的に生徒が学ぶ時はどのような時かについてや、教員主体から生徒主体の授業への転換についてご指導いただいた。



### ② 12月19日（水）S&Uコラボ事業

授業研究会 1年国語科 読みを深め合う 詩「見えないだけ」

指導者 宇都宮大学教育学部 准教授 司城 紀代美 先生

講話 ※研究授業と学校課題を関連させた内容の講話

詩の表現の特徴とその効果について、想像力を働かせながら考え、自分の考えをもつという学習である。思考を深めるための様々な工夫がされており、生徒一人一人が思い思いの表現をしている様子が印象的であった。指導講評では、特別な支援を要する生徒に対する支援について具体的にご指導いただいた。



## 4 本年度の成果と課題

### (1) 研究の成果

生徒による学校評価アンケートによると「家庭学習のきまりを守り、毎日（意欲的に）学習してる」という項目で5%上昇し、76%となった。

とちぎっ子学習状況調査の結果では、昨年より同一学年より全体の正答率の平均が2.2ポイント上がり、平均正答率が54.2%となった。また、全国学力・学習状況調査の結果では、昨年より同一学年より県の正答率との差が、全内容で良い方向に向かっている。

### (2) 研究の課題

本校の現状としては基礎・基本を習得させるための「授業規範の徹底」は改善の方向に向かっているが基礎学力については、まだ不十分である。その問題意識を、まず全教員にもたせたい。また、授業研究においては教科部会をさらに充実させ、教師同士の「学び合い」の体制をつくることに力を入れていきたい。